

厳島神社: 大鳥居の一部

宮島の大鳥居が 1951 年に大掛かりな修復を受けた時、2 本の主柱のうち 1 本の基礎からかなりの部分が取り除かれました。1168 年以来、島の玄関口を守る鳥居ですが、幾百年ものあいだに 7 回取り替えられてきました。修復の回数はさらに多いものです。

主柱は樹齢 500 年以上のクスノキでできています。クスノキは腐敗や昆虫に抵抗力のある木です。それでも、海中に 70 年以上建っていたあいだに、小さな穴やひだが点在するようになりました。穴のほとんどはある種のキクイムシによるものです。この甲殻類は、海外からもたらされ、1800 年ごろより厳島神社の木製社殿の根元にとって悩みの種であり続けています。